

教科	科目	単位数	種別	年次	
家庭	家庭基礎	2	必修科目	1年	
使用教科書	図説家庭基礎(実教出版)			担当者	

学習目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指す。
学習方法	座学、実習を通し、生活についての正しい知識を身につける。家庭科の各分野(衣食住、消費、福祉、子ども、高齢者等)の学習内容、小中学校や他教科での学習内容と関連づけ、総合的に考えると理解が深まる。 生活に関する知識や技術を活用しながら、生活課題を解決する方法を考察する。
学習評価	育成を目指す資質・能力
	育成を目指す資質・能力の評価内容
	1 基礎的・基本的学力 基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。
	2 課題解決能力 社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。
	3 情報活用能力 多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。
	4 自己表現力 目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。
	5 主体性 課題解決に向け、主体的に追究することができる。
	6 協働性 課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。
	7 自己理解 諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。
	8 社会貢献(社会参画) 地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。
担当者から	以上の観点をふまえ、 テストの点数、作品(実技)の点数、授業中の学習状況、実習の取組、授業で活用するプリントの提出などで総合的に評価します。 プリントは自分の考えを書き込んだりし、自分なりの工夫や整理をするように心がけ、自分の考えは自信を持って表現してください。
	製作実習の作品提出、授業で活用するプリントの提出を重視します。期限を守り、しっかり取り組みましょう。忘れ物をしたら申し出るようにしましょう。授業はHR教室のほか、被服室・調理室(どちらも1階)でも行います。教室移動の場合はチャイムがなる前に移動し、遅刻した場合は必ず理由を伝えましょう。移動教室の場合は、ジャージなど着替えが伴うこともあります。調理実習での忘れ物には特に気をつけましょう。

月	大単元	単元(題材)	学習内容	重点評価事項(資質・能力)								単元(題材)の評価規準			評価方法
				1	2	3	4	5	6	7	8	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
4	A人の一生と家族・家庭及び福祉	(1)生涯の生活設計	人の一生について理解し、生涯を見通し、主体的に生活するために、家族や地域社会の人々と協力・協働していく力を身に付ける。			○	○					人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解するとともに、自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理を行い、生涯を見通して生活課題に対応し意志決定をしていくことの重要性について理解している。	生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について考慮し、生活設計を工夫し、表現することができる。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに自分や家族、地域生活との関わりを踏まえながら、将来の充実向上に向け、生活設計を創造し、実践しようとしている。	テスト、実習のレポート、授業の取り組みの様子、ワークシート等の内容、実技などを基に総合的に評価する。
5		(2)青年期の自立と家族・家庭	青年期の自立と家族家庭について理解し、生涯を見通し、主体的に生活するために家族や地域社会の人々と協力・協働していく力を身に付ける。	○			○					生涯発達の視点で青年期の課題を理解するとともに、家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会との関わりについて理解している。	家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意志決定に基づき、責任を持って行動することや男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を気づくことの重要性について考察し、表現するなどをして、課題を解決する力を身に付けている。	青年期の立場から様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために、実践しようとしている。	
6		(3)子どもの生活と保育	子どもの生活と保育について理解し、生涯を見通し、主体的に生活するために家族や地域社会の人々と協力・協働していく力を身に付ける。	○		○						乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子どもを取り巻く社会環境、子育てについて理解するとともに、乳幼児と適切に関わるために基礎的な技能を身に付けている。	子どもを産み育てることの意義について考えるとともに、子どもの健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について考察し、表現するなどして、課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、社会の一員として子どもの成長に主体的に関わり、地域に参画しようとするとともに自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために、実践しようとしている。	
7		(4)高齢期の生活と福祉	高齢者の生活と福祉について理解し、生涯を見通し、主体的に生活するために家族や地域社会の人々と協力・協働していく力を身に付ける。	○	○							高齢期の心身の特徴、高齢者を取り巻く社会環境、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解するとともに、生活支援に関する基礎的な技能を身に付けている。	高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について考察し、表現するなどとして、課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、家庭での介護などの課題解決に主体的に取り組んだり、地域社会に参画しようしたりするとともに生活の充実向上を図るために、実践しようとしている。	
8		(5)共生社会と福祉	共同社会と福祉について理解し、生涯を見通し、主体的に生活するために家族や地域社会の人々と協力・協働していく力を身に付ける。	○		○						生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している。	家庭や地域及び社会の一員としての自覚を持って共に支え合って生活することの重要性について考察したことを根拠に理論的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	社会の一員としての自覚をもって、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために、実践しようとしている。	

[illegible]

[illegible]

教科	科目	単位数	種別	年次	
家庭	住生活	2	選択科目	異年次合同	
使用教科書	なし			担当者	

学習目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指す。	
学習方法	授業や演習を通し、正しい知識を身につけ、情報を選択できるように心がけましょう。授業で活用するプリントの提出を重視します。提出物の〆切を守るようにしましょう。 忘れ物をした場合は、申し出るようにしましょう。	
学習評価	育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力の評価内容
	1 基礎的・基本的学力	基礎的・基本的学力を身につけ、その知識・技能を他の学習や生活の場面でも活用することができる。
	2 課題解決能力	社会的諸事象を多面的・多角的に考察して、具体的な課題を設定し、解決に向かうことができる。
	3 情報活用能力	多様な着眼点から、適切に情報を収集し、課題解決法や自分の考えの形成に役立てることができる。
	4 自己表現力	目的や意図に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ、表現することができる。
	5 主体性	課題解決に向け、主体的に追究することができる。
	6 協働性	課題に対して、他者と連携し、力を合わせて解決を図ることができる。
	7 自己理解	諸活動を通じて自己の在り方生き方を考えることができる。
	8 社会貢献(社会参画)	地域社会とのつながりについて理解し、持続可能な社会について考察することができる。
	以上の観点をふまえ、 テストの点数、授業中の取り組み、演習やレポートの取り組み、提出物などで総合的に判断します。	
担当者から	実習費を集める予定です。また、実習費とは別に授業での演習のため、家から不用になったもの(通販カタログなど)を持ってきてもらう場合があります。教室移動がある場合にはチャイムになる前に移動し、遅刻した場合は必ず理由を伝えましょう。	

月	大単元	単元(題材)	学習内容	重点評価事項(資質・能力)								単元(題材)の評価規準			評価方法
				1	2	3	4	5	6	7	8	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
4	人と住居	住まいと風土	日本の住居について理解する。	○	○						○	日本の各地や世界の住生活や住居の様子、住文化の多様性や住まいの役割、自然と住居の関連などを理解している。	日本の各地や世界の住生活や、住文化などに関わる課題を発見し、その解決策を考察し、考察したことを根拠に基づいて、理論的に表現するなどし、課題を解決する力を身に付けている。	住生活や住文化、自然環境と住居など、人と住居との関わりについて自ら学び、自分や家庭、地域の生活の向上を図るために実践しようとしている。	テスト、プリントの記入、内容演習等のレポートなどをもとに総合的に評価する。
4		住まいと文化	海外の住居の特徴について理解する。	○		○									
4			住まいの様式や住まいの役割について、理解する。	○		○									
5		人と住居の関わり	自然環境や文化などに調和した住まいを考える。	○			○								
5	住まいの計画	住空間	ライフステージと住まいの関わりについて理解する。	○			○	○				ライフステージと住まい、生活行為と必要なスペース、家族構成に応じた住まいなどを理解し、平面図の読み取りや読み取った情報を適切に整理できる。理解したことを踏まえ、平面図の作成する技能を身に付けている。	ライフステージと住まい、生活行為と必要なスペース、家族構成に応じた住まいなどに関わる課題を発見し、その解決策を考慮し、それを踏まえて平面図などに表現するなどし、課題を解決する力を身に付けている。	ライフステージと住まい、生活行為と必要なスペース、家族構成に応じた住まいなどについて自ら学び、自分や家庭、地域の生活の向上を図るために実践しようとしている。	
6			生活行為とスペース、空間と動線の関わりを理解する。		○		○				○				
6			平面図を見て、住宅、部屋や家具の配置を理解する。	○							○				
7			家族構成になどに応じた適切な住居の選択や必要なスペースなどがわかる。	○		○					○				
8		住空間作り	部屋の間取りと実際の大きさを理解する。	○		○	○								
8			学習した内容を生かし、一軒家の平面図を作る。			○				○	○				
9	安全・安心な住まい	防災・防犯	災害の種類を理解し、対応を考える。			○		○	○		防犯や防災の種類やその対策、家庭内での事故防止、誰にでも住みやすい住宅などについて、理解している。	防犯や防災の種類やその対策、家庭内での事故防止、誰にでも住みやすい住宅などに関わる課題を発見し、その解決策を考察し、考察したことを根拠に基づいて、理論的に表現するなどし、課題を解決する力を身に付けている。	防犯や防災の種類やその対策、家庭内での事故防止、誰にでも住みやすい住宅などについて自ら学び、生活の向上を図るために実践しようとしている。		
9			個人や家族に合わせた災害への備えを考える。	○		○				○					
10			家庭内事故のリスクを考え、対策を考える。		○		○			○					
10			防災マップを作る。			○	○	○							
11		住みやすい住居	住まいのバリアフリーやユニバーサルデザインを理解する。			○	○		○						
11	インテリア	インテリアコーディネート	色が心に与える影響を理解し、室内のレイアウトやコーディネートを考える。	○			○				○	色が心に与える影響を理解し、インテリアコーディネートに関する技術を身に付けている。	部屋の種類や好みを考慮したインテリアコーディネートを考え、工夫し、考えたものを表現する力を身に付けている。	インテリアコーディネートに関連することを自ら学び、自分や家庭生活の質の向上を図るために学んだことを実践しようとしている。	
12			いろんなイメージのインテリアを考える。				○	○			○				
12	住環境	住まいと健康	快適な住環境の要素を理解し、それを保つための掃除などの対応を理解する。	○		○	○					住まいと健康との関連、住まいのメンテナンスなど住環境について理解している。	住まいと健康との関連、住まいのメンテナンスなど住環境に関わる課題を発見し、その解決策を考察し、考察したことを根拠に基づいて、理論的に表現するなどし、課題を解決する力を身に付けている。	住まいと健康との関連、住まいのメンテナンスなど住環境について自ら学び、生活の向上を図るために実践しようとしている。	
1		住まいの管理	住居のメンテナンスの必要性と方法について理解する。	○	○						○				
2	これからの住まい	住宅政策	日本の住宅政策と課題について理解する。	○		○						日本の住宅政策や多様な住まいのスタイル、空き家問題などを理解し、リフォーム等に関する技術を身に付けている。	日本の住宅政策や多様な住まいのスタイル、古民家や空き家利用、リフォームなどに関する課題を発見し、その解決策を考察し、考察したことを根拠に基づ	日本の住宅政策や多様な住まいのスタイル、古民家や空き家利用、リフォームなどについて自ら学び、自分、家庭、地域の生活の向上を図るために実践しよう	
2		多様な住まい方	新しい住まいのスタイルや住まい方を理解する。	○					○	○					

[illegible]

